

Effects of lifestyle on hepatobiliary enzyme abnormalities following the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident: The Fukushima health management survey

震災後の肝胆道系酵素異常への生活習慣因子の影響：福島県県民健康調査

高橋敦史

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

福島県立医科大学医学部消化器内科学講座

著者

高橋敦史^{1,2}、大平哲也^{1,3}、岡崎可奈子^{1,3}、安村誠司^{1,4}、坂井晃^{1,5}、前田正治^{1,6}、矢部博興^{1,7}、細矢光亮^{1,8}、大津留晶^{1,9}、川崎幸彦^{1,8}、鈴木均^{1,10}、島袋充生^{1,11}、杉浦嘉泰^{1,12}、宍戸裕章^{1,13}、林義満^{1,14}、中野裕紀^{1,3}、小橋元^{1,15}、神谷研二¹、大平弘正^{1,2}

1 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、2 福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、3 福島県立医科大学医学部疫学講座、4 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、5 福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座、6 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、7 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、8 福島県立医科大学医学部小児科学講座、9 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座、10 福島県立医科大学医学部循環器内科学講座、11 福島県立医科大学医学部糖尿病内分泌代謝内科学講座、12 福島県立医科大学医学部神経内科学講座、13 福島県立医科大学医学部整形外科学講座、14 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧内科学講座、15 獨協大学医学部公衆衛生学講座

要約

2011年の東日本大震災以降、避難区域を含む13市町村の地域住民を対象に県民健康調査の「健康診査」と「こころの健康度・生活習慣に関する調査」が実施されています。これまで我々は健康診査の結果から、震災後に肝障害(肝胆道系酵素異常)の割合が増加し、震災後の避難が肝障害のリスクとなることを報告しました。本論文では、健康診査の結果に、こころの健康度・生活習慣に関する調査の結果を連結して、肝障害の要因を明らかにすることを目的としました。

肝障害は対象(22,246人)の27.3%で認められました。実際の避難生活の有無別では、避難生活者でその頻度が高く(避難29.5%、非避難25.7%、 $P < 0.001$)、男性、中等量以上の飲酒、活動量低下は避難の有無に関わらず、肝障害のリスク要因となっていました。さらに、非避難者では転職が、避難者では非雇用がそれぞれ肝障害のリスク要因でした。本論文で、震災後の肝障害に様々な要因が影響していることが示されました。

掲載情報

「Medicine」(2018)

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Suzuki H, Shimabukuro M, Sugiura Y, Shishido H, Hayashi Y, Nakano H, Kobashi G, Kamiya K, Ohira H.

Medicine (Baltimore). 2018 Oct; 97(42):e12890.